

2023年度 学校評価シート（学校関係者評価）

武蔵野相愛幼稚園

外部評価委員 2名

内部評価委員 2名

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか
適切であった。

特に学校運営の情報、園児募集に関しては、入園者数が減少傾向にあることもあり、さらに強化した方が良いと感じている。ホームページをスマートフォンに対応させたり、外部サイトからの流入を増やすなどの点も盛り込まれているとさらに良いと感じた。「Ⅰ. 教育目標」については、キリスト教保育の使命を明確かつ着実に踏まえた目標として記されている。むしろ「Ⅱ. 重点目標」と合わせて、まとめると良いと思う。重点目標とは、もう少し具体的、実践的な目標を掲げることが望ましく、前年度を振り返り、この園が次年度どのような課題を掲げ、それを具体化していくのかを記す部分だと考える。

2. 評価結果の内容は適切であったか
概ね適切であった。

新型コロナウイルス感染症の位置づけの引き下げに合わせて、単に以前に戻るということではなく、状況に合わせ、積極的に対応したことが伝わる内容であった。特に保育参加や各行事の復活により、保護者が園での園児の生活を理解する機会が増え、嬉しいことであった。また、都会の中の幼稚園でありながら、園庭のみかんの木の豊作をみんなで喜び、収穫し、感謝していただく経験やアゲハチョウの幼虫を大事に育て、羽化する瞬間に立ち会えた子どもたちの経験は、貴重なものであった。教育目標の中にある「子どもたちの遊びに積極的に関わり、遊びの仲間に入りながらやりとりを支えていく」については、子どもたちの社会性を育むことに大きく寄与する相愛幼稚園の魅力だと感じているので、今後も継続してほしい。満三歳児保育の導入について、今後の評価が期待される。ただし、「希望の中にあって、神と人との関係、人と人との関係を通して、真の平和をつむぎだす喜びと価値に気づきながら、共に育ち合う保育の日々とする。」とある重点項目（特に「真の平和をつむぎだす」）に沿った取り組み内容を読み取れなかった。日々、地道に実践されていると察することはできるが、この点について、キリスト教保育以外の一般の方にも了解できる具体的な表現が必要。この意味においても、Ⅰ教育目標とⅡ重点目標を再整備することが望まれる。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

保育の在り方や保護者への対応は、園の方針に沿った具体的で適切なものであった。
全国的な幼稚園児数の減少の中で、働きながら園を利用する保護者に対する対応や預か

り保育の内容についての課題設定が必要となっていくだろうと感じる。しかしながら、少子化の荒波に対して、足元の数字を追うだけでなく、園の魅力について考えている点、またその内容がとても良いと感じた。子どもに対してだけでなく、大人同士も関わり合い、尊重、助け合いを大切にすることが、子どもたちにも伝わると感じている。園の魅力となる「プラスα」が何であるのかを考え、実践していきたいとのこと。今後重要な課題設定である。これをどのように具体化していくのか、次の項目4として2024年度の取り組みに期待したい。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

適切に行われている。

園児の成長を一番に考え、日々の保育が行われていることが伝わってくる。武蔵野相愛幼稚園の良さが、多くの未就園児と保護者に伝わることを願う。園の魅力となる「プラスα」について、焦ることなく、地道に今まで通り子どもと保護者に寄り添う保育を実践することで見えてくるものがあると思われる。正念場を乗り越っていく鍵が見つかることを期待している。上記3記載の「プラスα」が何であるのか、園内の保育従事者のみならず、保護者や外部の方々からも意見やヒントを頂きながら、共に創りあげると良いのではないか。